

# 桐生に誇りと愛着を持つ子どもを増やすために

～観光事業からのアプローチ～

観光交流課

## 1 はじめに

観光交流課では、桐生市の観光振興を目的にし、様々な事業を実施している。観光誘客のため、本市の魅力を内外に発信している。幼少期から桐生の魅力に気づき、愛着をもち、将来にわたりふるさと桐生を自慢できる子どもを一人でも多く増やしていく活動を観光政策の核にしている。

## 2 概要

桐生市観光大使である女優の篠原涼子さんを起用した桐生市観光イメージアップポスターを作成した。今までの自治体の観光ポスターと一線を画す斬新なデザインが話題となり、新聞やテレビ、週刊誌など数多くのメディアに大きく取り上げられた。

また、平成23年から毎年実施している四鉄道ハイキングをリニューアルし、鉄道利用者と観光客の増加を図るため1日開催から7月1日から12月31日までの6ヶ月間を開催期間として実施した。

さらに、市では旅番組や情報番組などのテレビ撮影支援を行うほか、映像作品の制作支援を行っている民間団体「わたらせフィルムコミッション」と連携し、きりゅう映画祭への参加など映画やドラマなどの映像制作を通して地域資源の素晴らしさを発信し桐生市のPRを図った。

## 3 活動の様子

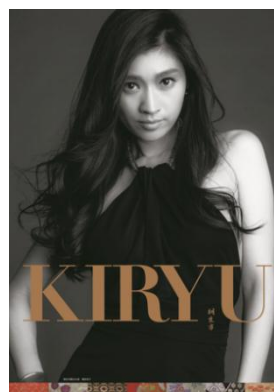
### (1) 桐生市観光イメージアップポスター製作

観光ポスターについては、製作コンセプトを明確にした。特に見る人にインパクトを与え、篠原さんの魅力を全面に打ち出し、桐生市を商品と見立てて、企業広告をイメージした。斬新さを追求しつつ、市民から受け入れられる作品を目指した。その結果、多くのメディアから注目され、市民からは掲出依頼が相次ぎ、市内各所に沢山のポスターを掲出することができた。

また、市内中学校の国語の表現力を学習する授業では、職員がポスターの目的とその役割について講演し子供たちに、桐生市の魅力を伝える大切さを伝えた。テレビ、新聞等の情報発信は、一過性という面が強く、話題となったポスターも徐々に忘れ去られてしまう。大切なのは、桐生市に住んでいる私たち一人ひとりが、宣伝マンになって桐生市の情報を発信し続けることで、交流人口の増加による地域活性化が図られることを伝えた。

桐生市観光ポスターと授業風景→

4 鉄道合同ハイキングパンフ↓



## (2) 四鉄道合同ハイキング

桐生市には4つの鉄道（JR、東武鉄道、上毛電気鉄道、わたらせ渓谷鐵道）が乗り入れている。本事業は、公共交通の利用促進やまちなか観光の推進、観光資源・物産のPRを目的に開催している。毎回、新コースを設定しているが、平成27年度はNHK『花燃ゆ』の初代県令を務めた楫取素彦ゆかりの施設や世界遺産登録により盛り上がる「絹」に関する市内の織物施設などをめぐるコースとし、各所で特典を受けられ、有料施設を選定した。また、これまでは、1日限定開催として実施してきたが、経済効果を生み出すため、7月1日～12月31日の6ヶ月間を開催期間とした。学校が夏休みとなる7～8月を含めた実施期間とし、子どもや家族連れが参加しやすくなったことで、子どもたちが桐生市内を歩き、桐生を知り愛着を醸成する事業となっている。

## (3) 映像による桐生市のPR

### ① わたらせフィルムコミッション支援事業

桐生市には山紫水明な土地柄から古くから織物産業が栄え、数多くの近代化遺産や動物園・遊園地などの文化施設も多様である。わたらせフィルムコミッションは、2002年に設立された映像作品の制作支援を行う民間団体で毎年数多くの映画、ドラマの舞台提供をしている。観光交流課が撮影の相談窓口となっており、毎年30件程度の撮影支援実績がある。

### ② テレビ番組撮影支協力および誘致活動

旅番組や情報番組への積極的な支援活動を行っている。職員が都内の番組制作会社への訪問を行い、問い合わせが合った場合、迅速な対応により桐生市の情報が番組内で採用されるよう取り組んでおり、年間40本程度の番組で取り上げられている。

### ③ 第5回きりゅう映画祭

「映画を通して地元桐生市・みどり市の魅力を全国に発信しよう！」という想いのもと、桐生青年会議所が主催している本映画祭に桐生市を代表して観光交流課がきりゅう映画祭運営推進会議のメンバーとして運営に携わり、オール桐生市ロケの短編映画を制作し、上映した。平成27年9月12日・13日の2日間桐生市市民文化会館にて実施した映画祭には、子どもの来場も多かった。



撮影の様子

## 4 おわりに

様々な活動によりテレビ番組や旅行雑誌などのメディアに多く取り上げられ、観光パンフレット片手に観光客がまちを歩いている観光客が増えてきている。それを目にした子どもたちが、自分が住んでいるまち桐生を誇りに思い、興味をもち、自ら学び、知ろうとする。観光客には、自然に挨拶を交わし、親切に道案内をして桐生市の自慢話をする。そんな市民が増えるよう、観光事業を今後も実施していきたいと考えている。